

科目区分： 教科又は教職に関する科目
 授業科目： 教育実践研究
 担当教員： 平松 義樹
 受講生数： 96名

平松先生のストレートすぎるメッセージで
 胸がパンクしそうです。
 やります!!

教育実践総合センタ - 平松義樹

1. 授業の目的と概要

本講座の目的は、最近の学校教育をめぐる諸問題、特に学力論や授業論について実践的に研究していくことにある。そして、教師としての使命感や実践的指導力を培うとともに、人間としての生き方について自ら考える力を育てることをねらいとしている。

2. 学生による授業評価

[学生の受講態度自己評価]

秀 (2%) 優 (68%) 良 (30%) 可 (0%)

[学生による教師評価]

秀 (22%) 優 (70%) 良 (8%) 可 (0%)

[学生の講座満足度評価]

秀 (12%) 優 (68%) 良 (20%) 可 (0%)

3. 学生の感想

今年は、学生とのコミュニケーションを積極的にとり、人間関係を意図的に構築するように心がけた。指名もできるだけ名前を呼ぶように留意した。以下は、最後の授業の感想の一部である。

「本当に先生という職業がいいな」

<学習感想>この講義では、平松先生からたくさん言葉をもらいました。その多くが心に響いて、そして平松先生と生徒・児童の人間関係に関する話や映像を見聞き、平松先生の教育に対する熱い心と教師という職業の素晴らしさを終りに感じることができました。そこには困難も多々あるとは思いますが先生の話を聞いていて、私にも可能性はあるかな、と希望がもてていけます。今日、バレーボールの試合の映像を見ました。本当に感動的でした。彼女たちの頑張る姿、平松先生がタイム中にかけた言葉、お話を聞いていて、最後彼女たちは優勝したの涙を流していました。今まで本当に頑張ってきたというところがわかりました。その日々の大半は練習の中で、先生は子どもたちに練習としての指導を中心に訴えかけることを常にされていたと思います。試合の様子とその練習の様子を想像すると、本当に先生という職業がいいなと思いました。平松先生の力に、子どもたちと熱い生活を過ごせる、そんなふうに私もなれたらいいな、と思っ、心を新たに頑張りたいと思います。

「大学の授業で泣いた」

大学の授業で泣いたのは、初めてでした。4年間の大学です。この授業を受けて、最後の最後にやられてしまいました。学園の山内先生のお話しか、今日のセンターばかり、これほど心も動かし、授業はありませんでした。高校の先生にならざるの道は、遠いところだが、あつちまで挑み続け、いい先生にたれよう努力したいと思えます。

「寒いけど、寒くない」

今日、久しぶりの平松先生の授業、やはり大変勉強になりました。昨日の授業として、少し切ない気持ちになりました。先生が私たちに伝えたい事は山ほどあって、1時間では限られていて...。授業中の先生はいつもと違う感じで、「もう、そんな時期なんじゃない」と実感しました。今、教員講座を受けていて、熱い仲間達と熱い話をしていて、他学部の受講生が多量で、教育学部以外の私は、平松先生の授業の話をおくさんの人にしていきます。人に伝えようとする思いが熱く切ります。寒いけど寒くない。「心が変われば態度が変わる」、「心の大切さは充分伝わっています。何がどうございませう。最後の授業、楽しませていただきます。

「決して逃げ出さない」

今日が最後の授業だと言われた時に、本当に残念な気持ちになりました。平松先生ほど自分と向き合え、熱く取り組む先生は大学ではまだ見たことがなく、大学が一番学べた授業だったと思います。先生の熱い話と励ましの言葉は、今は教員を目指さずに、毎日進んでいこうと思えますが、いずれも教員を目指したいと思うので、胸に秘めていたのを見ます。勉強熱心、授業がやりがいとされている。だから、自分が厳しく頑張る。決して逃げ出さず、やりきる。

「良い教師に自分になってみせる」

先生の授業は毎日多大なる刺激を与え、教師として自分の成長を促すような言葉「頑張れ」「必死に」「百戦百勝」などがあった。学生の感想を、その心に響きわたる言葉展開で行うことは、簡単ながら、難しい。感想をレポートで書くよりも、容易に「今後やりたい」と書いていた自分を思い、心から思い込めて、書き綴り、次第に勉強に向かいた自分の背中を推してあげたい。まっすぐな先生の授業で、人間性です。この感謝の思いは、言葉にできず、良い教師に自分にならなれようと思っ、やりきる。

「胸がパンクしそうです」

平松先生のストレートすぎるメッセージで
 胸がパンクしそうです。
 やります!!

